

風土記の丘の花だより³¹⁴

今、そしてこれから見られる植物 (2026年3月28日)

風土記の丘は「開花宣言」をしてから一週間が過ぎました。まさに春爛漫です。サクラはもちろんのこと、どの木も草も色取りどりの花を咲かせています。たくさんの中からどれを載せようか迷うところですが、まずは次の4種を紹介することにしましょう。



ハクモクレンの花が散り始めるとコブシの花が咲き始めます。同じモクレン科でどちらも白くて、どっちがどっちか分かりにくいですね。その違いは312号のハクモクレンのところで紹介しました。コブシは花が終わると実ができますが、それがごつごつして、まるで握りこぶしのようなのでこんな名前が付いたと言われています。今の時期、モクレン科の木の下で落ち葉をかき分けると、1センチほどの小さなキノコがたくさん見つかります。それはホオノキキンカクチャワンタケという長い名前のキノコです。



大日山35号墳のふもとにある金竜神社という小さな祠の入り口付近に大きなエドヒガンというサクラの木が何本もあり、それが今見頃を迎えています。少し遠いですが、一見の価値はあると思います。ソメイヨシノはこのエドヒガンとオオシマザクラを交配させて作った品種と言われています。オオシマザクラは藤棚の近くにも一本ありますが、大駐車場の南側にたくさん植えられていますので、それもお覧ください。全体に白っぽく見えるサクラです。もちろん山にはヤマザクラもきれいに咲いていますよ。



春を代表する草花の一つにスミレがあります。このタチツボスミレは春一番に咲き始めるスミレです。葉はハート型で、花は薄い紫色です。春を迎える喜びも重なり、余計にスミレの花が愛おしく思えますね。それでスミレは万葉の昔から人に愛されてきました。山部赤人はこんな歌を詠んでいます。「春の野に すみれ摘みにと 来しわれぞ 野をなつかしみ 一夜ねにける」 スミレに見とれていたのなら、知らない間に夕方になってしまっていたのでしょうかね。



スモモの花が万葉植物園で咲いています。園路から見上げると、真っ白でとてもきれいです。近づいて見るとこんな花



です。漢字で書くと「李」、ことわざの「李下に冠をたださず」の李です。昔、漢文で習った時は何とも思いませんでしたが、いつの間にか、そんなことをしみじみ思う歳になりました。(笑) 松下